



ただいま、ただいま、ただいま、
商店街における学童保育の提案

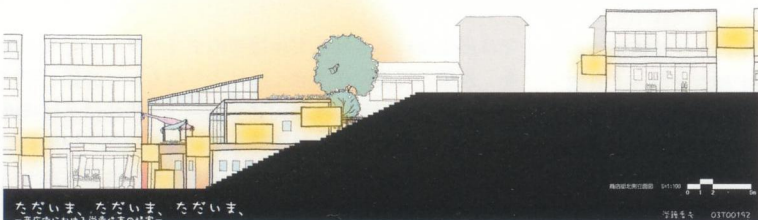
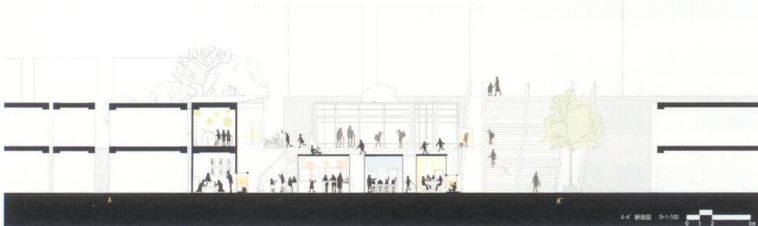
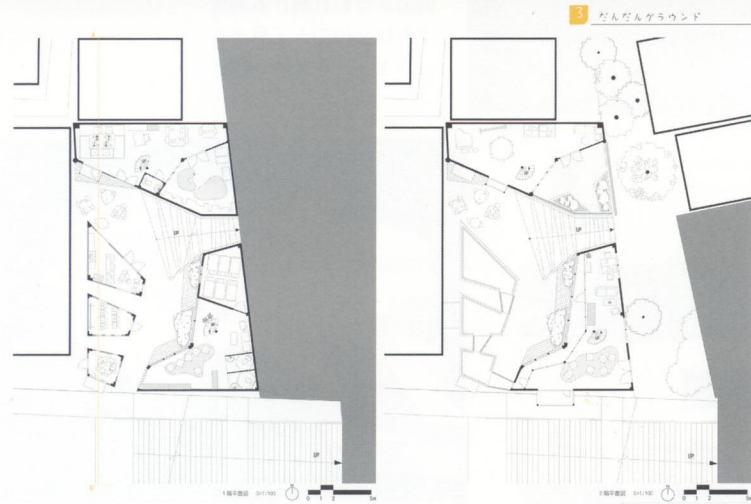
鈴木佳奈 (すずきかな)

千葉大学 工学部都市環境システム学科



本計画は、学童保育をひとつの施設の中で行うのではなく、商店街中に施設と用途をちりばめ、地域が運営を行う新しい学童保育のかたちを提案したものである。計画地は、台東区谷中・谷中銀座商店街とした。この商店街は、住民や観光客に根強く支持され、人と人との暖かい関係が今も残る地域であり、子供が育つ環境としての魅力を多く持つ商店街でもある。各地の商店街が衰退していく中、この商店街にとって学童保育事業がイメージアップや来街頻度の向上を図るためのきっかけとなることを期待する。

現代の危険が多く潜む社会の中で、子供たちを内に閉じ込めて守ることに疑問を感じ、地域の人々との会話や気配によって、やわらかく守っていくことを促す環境と空間を目指した。



【講評】 何よりも作者の「街と子供」に対するまなごしの優しさを感じる。古い町並みが色濃く残る谷中という地域の持つ空間の魅力を生かしつつ、そこを「まちなかロッカー」「かさこそ路地」「だんだんグラウンド」という要素を入れ込み、学童保育の場にするという提案です。これは、商店街が寂れ始めている他の地域への多くの示唆に富んでいます。特に、「まちなかロッカー」は私の住んでいる房総の田舎町のような処ではすぐにも実現させたい提案です。

この提案のすばらしさは、「自ら肌で感じ、素直に反応した提案」である事です。建築を考えると、実はこのような小さな空間がきちっと意識されていないと大きなすてきな空間が生まれるはずがありません。自らの感性を信じて自分を磨いて下さい。 【審査員：鈴木元晴】